

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2775502525		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	第二こうせい苑グループホーム		
所在地	八尾市中田3丁目54-26		
自己評価作成日	平成 29年 10月 1日	評価結果市町村受理日	平成 29年 12月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2775502525-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 11月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から10年以上が経過し、当時よりご入居の利用者様は重度化が進んでいますが、安心して生活できるよう家庭的な雰囲気大切に、常に利用者様に寄り添い思いをくみ取り、柔軟な対応ができるよう職員が一丸となって取り組んでいます。
医療との連携が徹底しており、開設時から看取り介護の実践を多数経験し、また、より良い暮らしを提供できるよう、知識向上に向けて職員は日々研鑽しています。
法人全体として、地域へより質の高いサービス提供を目指し、法人の各事業所が参加できる研修会や資格取得支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の暮らしを支えてきた医療法人が、医療と介護の連携による総合的なサービスを提供することで、地域のニーズに応えるべく開設したグループホームです。「生活の継続・笑顔で寄り添う・地域との連携」が込められた理念を職員は共有し、笑顔で実践しています。母体の医療法人との連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心に繋がり、利用者の在居年数が長いのも特徴です。また、開設以来看取りの方針を掲げ、ほぼ全員の利用者をホームで看取っています。職員は看取りの貴重な経験から学んだことを日々のケアに活かしています。美味しい食事は利用者の楽しみとなっています。法人全体で事業を支えるシステムが充実しており、研修の機会も多く、職員の知識や技術のレベルの高さもホームの自慢のひとつです。職員がホーム長に敬意を払い、ホーム長が職員に感謝する職場環境のもとで職員が支える利用者の暮らしは、明るく穏やかな雰囲気があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に事業所の理念を作成し、フロア内の目につくところに掲げている。業務中でも度々目にすることで意識づけを行っている。全体会議では理念の確認を行っている。	法人理念のもと、『「今までの生活を継続できるよう支援します」「常に笑顔で利用者様に寄り添ったケアを提供します」「地域と連携し安心・安全な生活を支援します」』をホームの理念として掲げています。職員は理念を共有し、日々の支援の中で実践しています。広報誌に理念を掲載し、また、運営推進会議でも理念にふれ、家族や地域にも理解してもらっています。職員は、会議の中で理念の確認を行っています。	今後は、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーやお好み焼き店、レストランなどに出かけて地域の一員として交流している。 近隣の保育園、小学校とも交流を行っている。 大正琴、コーラスのボランティアの方にも毎月来ていただいている。	地域との交流には積極的に取り組んでいます。利用者は恒例になっている近隣の保育園児の訪問を楽しみに待っています。小学校との交流もあります。大正琴やコーラス等のボランティアの協力は、利用者の豊かな暮らしを支える力となっています。 ホームの前にある店に買い物に来た地域の方がホームに立ち寄りたり、認知症の相談にくるなど、地域から頼られる存在となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方への支援の方法や情報をお知らせしている。 見学に来られた際に困っていることの相談に乗ったりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催し、利用者様、家族様、地域の方に参加していただき、様々な議題について報告や意見の交換を行っている。 時には食事の試食もしていただいている。	運営推進会議は、利用者・家族・民生委員・高齢クラブ代表・市職員・地域包括支援センター職員等の参加で開催しています。会議では、ホームの状況、行事の内容、職員研修の内容等を報告・説明し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。参加者に食事の試食をしてもらうこともあります。会議は報告をする場だけでなく、自分たちが困っていることや課題を打ち明ける場ともなり、ホームの悩みもみんなでお考え、支えてもらう会議となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課の方とは常に連絡、相談できる環境にある。	市の担当者とは、いつでも相談できる関係が築かれています。運営推進会議にも市職員が出席しています。ホーム長が役員として出席している、八尾市介護保険事業者連絡協議会のグループホーム分科会には、市職員も出席し、情報の交換と連携を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内外の研修を繰り返し受けることで、具体的な行為を理解している。 声掛けにも気を付けている。 玄関の施錠については前の道路は交通量が多いため施錠している。 利用者様が外へ出たいような行動の時には、玄関前のベンチで職員と一緒に過ごすようにしている。</p>	<p>身体拘束廃止に関する研修を実施し、個人の尊厳を守るケアの確認を行っています。ホーム長は「利用者が自分だったらどう思うか」と常に職員に問いかけています。 現在、ホーム前の道路の交通量が多く、玄関は安全を重視し施錠しています。利用者の自由な暮らしの支援を実践するために、利用者が外出したい様子を察知したら、職員がさりげなく声かけし、一緒に外出するようにしています。</p>	<p>玄関の施錠はやむを得ない状況にありますが、利用者に閉塞感を与えないよう、引き続き、安全で自由な暮らしを支援する工夫を重ねていくことが期待されます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修を受け職員は認識している。職員は日々利用者様の状態観察に努め、また情報共有も徹底し、虐待を見逃す事が無いよう努めている。 働きやすい職場づくりにも努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修にて学んでいる。 実際に後見人制度を利用されている方もおられる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には重要事項説明書に基づいて行い、ご理解・納得していただいた上で契約を結んでいる。加算等で利用料金が改正される時は、文書および口頭で説明を行い、ご理解いただけるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご本人や家族様とは常にコミュニケーションを大切にし、意見・希望を話せる雰囲気づくりを心掛けている。 アンケート調査を行い、意見が出されたことを活かせるよう検討している。 公共機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。</p>	<p>家族の面会時には、その都度声かけを行い、意見や要望を聞くようにしています。また、家族交流会を開催しています。交流会には、たくさんの家族の参加があり、意見や要望を聞く機会となっています。家族にアンケートを実施し、サービスの向上・改善に繋がっています。 利用者の暮らしぶりが伝わる写真入りの広報誌も家族に喜ばれています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア会議では検討したい議題を前もって意見を書けるようにし、出された意見を検討しサービス向上に繋げている。全体会議でも意見や提案などを伝える機会がある。</p>	<p>毎月の全体会議やフロア会議で意見を出し合い、サービス向上に向けて話し合っています。勤務の都合で参加できない職員にも、事前に書面で意見を出してもらい、全員の意見を尊重しています。ホーム長は、職員の主体性を尊重し、「自分たちが働く職場のことは自身で考える」ように伝えています。法人全体で事業を支えるシステムが充実しており、研修の機会も多く、職員の知識や技術のレベルの高さもホームの自慢のひとつです。 職員はホーム長に敬意を払い、ホーム長は職員に感謝する職場環境です。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が専門職としての目標や充実感を持ち業務に取り組めるよう、研修会や勉強会を通じて意識向上を図っている。 働きやすい職場環境づくりに配慮し、職員の定着に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においての介護福祉士受験対策講座や14項目にわたる法人内部研修を設け、職員のスキルアップを図っている。また、事業所内での会議や勉強会を通じて意識向上を図っている。職員間で利用者様の状況などの情報を共有し、お互いに介護技術の向上に研鑽している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会のグループホーム分科会に加入、管理者は幹事として活動し、他施設見学会や懇親会などに積極的に参加し情報収集・交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者様は環境が変わった事で不安を感じていることを理解し、ご本人の思いをくみ取れるようコミュニケーションを密にとり寄り添っている。これまでの生活環境を継続できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とのコミュニケーションも大切と考えている。 家族様の要望や不安に耳を傾け、安心していただけるよう声掛けを行っている。 利用者様の状態に変化があった時は都度報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリーやご本人・家族様との会話からサービスの優先順位を見極めて、カンファレンスを行いサービス計画に反映させている。必要な時は医療との連携も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩から学ばせていただくと言う気持ちを常に持ち、日常的な家事で出来ることを一緒に行い、食事と一緒に摂ることで共に生活しているという関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態に変化があった時には都度報告し、共に支えていくよう心を砕いている。行事に参加していただいたり、季刊誌で普段の様子が分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族だけでなく友人の面会時にも本人と一緒に歓迎した雰囲気でお迎えしている。</p>	<p>ホームの理念の一つである「今までの生活を継続できるよう支援します」を実践しています。馴染みの友達がホームを訪問したり、ホームへ入居する前の施設へ行く利用者もいます。 利用者一人ひとりの、長年馴染んだ生活の好みなどは、介護計画に丁寧に記入し、職員間で共有し生活の継続の支援に活かしています。 ホームで亡くなった利用者の顔なじみの家族が訪問することもあります。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様が居心地よく過ごせるよう座席の位置を配慮している。 家事やレクと一緒に参加してもらい、他者とかかわりが持てるようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去された入居者様の家族様が今でも気軽に立ち寄ってくださっている。 お花を頂いたりご家族様の相談・近況報告をされる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや普段の生活の様子からニーズを把握しケアを行っている。訴えることができない利用者様は本人の思いを汲み取るよう努めている。	入居時に本人の生活習慣や趣味、好み等や家族の希望を聞き取り、記録しています。職員は、日常の利用者の様子や表情から思いを汲み取るように努めています。ホーム長は「業務優先でなく、利用者との関わりの大切さ」を職員に伝えています。関わりの中での気づきや発見は記録に残し、職員間で共有しています。 認知症の研修等を重ね、職員の観察力が高まりました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のサマリー等や家族様からの情報、また、本人との会話から生活歴を聞きケアに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活ではあるが、利用者様各々の生活ペースを大切にしている。体調・体力に合わせて個別ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当者が月1回モニタリング、3ヶ月に1回のカンファレンスを行い課題の検討を行っている。</p> <p>本人・家族様の要望も聞き入れ、計画に反映させている。</p> <p>通常の更新時期以外でも状況に変化があれば新たに計画書を作成している。</p>	<p>介護計画書は、大阪認知症高齢者グループホーム協議会のサービス計画書の書式を活用し、「暮らしの状況」「心身の状況」を項目別に踏まえ、日々の「生活の目標」「介護の目標」を定めています。利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。モニタリングは毎月、居室担当者が行き、見直しに活かしています。計画作成担当者は「利用者のできることに注目した、利用者のための介護計画書」を心がけて作成しています。</p>	<p>今後は、より本人・家族の思いや希望が反映できる介護計画の作成、また、個別支援の実践を理解してもらうためにも、サービス担当者会議に家族の参加を検討されてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に毎日ケアプランの実施項目を設定し、職員は実施項目を意識して援助を行っている。個人記録や連絡ノート等で情報を共有している。</p> <p>カンファレンスで見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族様が利用者様との外出に不安を感じているときは、自費ヘルパーの手配を行うなど、その時々ニーズに柔軟に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーに買い物に行ったり、近隣の保育園や小学校と交流を行ったりしている。定期的にボランティアの方に来ていただいている。運営推進会議で地域で参加できる行事などの情報を頂いたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2～4回主治医の往診がある。眼科・歯科・精神科の往診もある。医師の指示や家族の希望にて他科の受診ができるよう支援している。職員が付き添うこともある。	入居前からのかかりつけ医の受診は、希望があれば可能です。眼科等入居前からのかかりつけ医に往診にきてもらっている利用者もいます。医療連携24時間オンコール体制を整えており、看護師が毎日健康チェックに訪問し、月2回は医師の往診があります。医師や看護師に利用者の状況を的確に報告することで、職員の日々の観察力がアップしました。 医療と介護の連携による総合的なサポートを提供する法人の支援は、利用者・家族、そして職員の安心につながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制になっており、訪問看護師が毎日訪問してくれているので、利用者様の日々の様子や変化を伝え相談できている。24時間オンコール体制になっており、緊急時でも対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には利用者様の心身の状態等を医療機関へ情報提供している。入院中も面会に行き病状の把握を行っている。退院時には医療機関からの情報提供を受け、主治医・看護師と相談・助言を得ている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「看取りに関する指針」を基に入居時に説明している。実際の看取りの時期に再度、家族の意向を確認し、意向に沿ったし支援を行っている。家族・医療・職員が連携し、本人が穏やかに終末期を過ごせるよう支援している。</p>	<p>開設以来、終末期を見据えた支援をしています。法人の方針である、「医療と介護の連携による支援」の実践で、これまでほぼ全員の看取りを行いました。ホームにおける看取り介護の考え方、介護の具体的な支援内容・方法等を示した「看取りに関する支援」を作成し、家族に説明しています。また、重度になった場合を想定し、本人の意思に関する同意書ももらっています。実際に、看取りケアが必要になった時には、改めて家族の意向を確認します。職員は、ホームでの看取りの経験で「利用者・家族の思いに寄り添うことの大切さ」「人生の最期に関われる尊さ」等貴重なことを学び、日々のケアに活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	法人内や消防署などの研修に参加し、救命技術の習得に努めている。 事業所内にはマニュアルを掲示している。 全体会議では勉強会等で対応の確認を行っている。		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	定期的に消防署立会や法人防災管理者の指示のもと、地震や火災等の災害場面を想定し避難訓練を行っている。また、夜間や非常時には近隣職員が駆けつける体制になっている。	災害マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施しています。他県での洪水被害をきっかけに、風水災害用のマニュアルも作成しました。 元消防署員の職員が法人全体の防災に関して、点検や避難の方法を職員に解りやすく浸透させています。非常災害時の備蓄も一覧表を作成し準備しています。 施設の安全管理と職員の防災意識の高揚に努め、災害防止に効果を挙げたとして、八尾市消防署長より、消防記念式典で表彰されました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を一人の人として接し、人格を尊重し自尊心を傷つけない対応を心掛けている。 排泄の失敗時に対してもさりげない対応を心掛けている。	ホーム長は職員に「あなたはどうされたいか」を常に問いながら、そして「相手がどう思うか」考えながら行動するように伝えていきます。また、排泄・入浴介助、居室に入る時等、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて具体的に助言しています。 利用者への愛情と敬意の気持ちは、職員が利用者に対応するケアの場面で実際に見ることができ、介護のレベルの高さが伺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いを表出しやすい雰囲気作りを心掛けている。 訴えができない利用者様には表情や様子から思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務マニュアルはあるが、その日の利用者様の体調・希望に沿って柔軟に対応している。 業務優先にならないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>一人ひとりの好みの身だしなみやおしゃれを理解し、季節に合った衣服を選べるよう配慮している。 訪問美容では本人の好みに添えるよう依頼している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の前に献立の説明をしたり、楽しく会話しながら職員と一緒に同じテーブルで食事をしている。 食後の後片付けも手伝って下さる。</p>	<p>食事の美味しさもホームの自慢のひとつです。3食、同法人内のセントラルキッチンから届きます。ご飯と汁物はホームで作り、利用者に合った形態に提供しています。誕生日にはホームでケーキを作り、祝っています。 リビングから見えるカウンター越しのキッチンで、食事を準備している様子を楽しみに待っている利用者の表情からも、食事の美味しさが伺えます。 職員も、利用者と同じものを食べながら、さりげなくサポートしています。 「お代わりしていいかな」「美味しいね」等の満足の声が聞こえてくる食事の時間です。 利用者のいかにも「美味しい」「嬉しい」といった表情を見ることができる、ホームの食事場面です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	食事・水分摂取表で職員が摂取量を 把握することができる。水分確保のた め本人の好みそうな飲み物を小まめに 提供している。それぞれの能力に合わ せた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを一人ひとりの能力 に合わせて介助を行っている。 義歯の方は毎日洗浄している。 誤嚥性肺炎の予防を意識してケアを 行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄表にて一人ひとりの排泄パターン を把握し、なるべくトイレでの排泄を支 援している。 排泄の失敗に関してはプライドを傷つ けないようさりげなく声かけし介助して いる。	職員は細やかな排泄チェック表を作成 して利用者の排泄パターンを把握して います。水分量も記録に残しています。 昼間は全利用者がトイレで排泄ができ るように支援しています。どんなに重度 な利用者も昼間にトイレでの排泄を1 回以上、職員二人介助で支援していま す。布パンツ使用の利用者には、この 状態が長く継続できるように工夫を重 ねて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理 解している。水分不足に注意し運動な どにより自然に排便できるよう取り組 んでいる。便秘時には主治医・看護師 に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の体調や気分で変更している。拒否があるときは無理強いないようにしている。個室で会話したり、歌を唄ったりしながら楽しい雰囲気の入浴できるように心掛けている。	入浴は週 2～3 回行っていますが希望すればいつでも可能です。利用者の重度化により入浴が困難な場合もありますが、夏場はシャワー浴も行い、冬場は湯船でゆっくりと浸かれるように職員が二人介助で支援して喜ばれています。利用者が楽しく入浴できるよう職員と一緒に歌を歌ったり、話をしながら、楽しい雰囲気の中で入浴を支援しています。利用者の希望により同性介助も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決っていない。一人ひとりの生活リズムや体調に合わせている。 日中、外気浴や体操などを行い活動的に過ごし昼夜逆転の予防に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所内に服薬表を掲示し、また個別ファイルにも薬リストをファイルし、いつでも確認できるようにしている。 処方に変更のあった時は連絡帳に記入し、全職員が情報を共有できるようにしている。副作用等に気づいたときは速やかに看護師に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>家事の好きな方、歌の好きな方、おしゃべりが好きな方など本人が楽しいと思えることを提案するようにしている。時にはカラオケや散歩に出かけ気分転換を図っている。行事ではノンアルコールビールを楽しんでもらうこともある。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的に苑の花壇の花を見たりベンチでお話したり外気浴を行っている。気候の良い時は町内を散歩したり、近隣のケーキ屋やスーパーと一緒に買い物に行くこともある。家族様と外食やお墓参りに出掛けられることもある。</p>	<p>天気の良い日は近くの公園へ花を見に出かけたり、近くのスーパーマーケットへ買い物に出かけます。近所の花を見ながら散歩もしています。最近の利用者の重度化により近所に出かけることが困難な場合もあり、ホーム前庭のベンチに座って草花を眺めながら、季節の風にあたって外気浴を楽しむ時もあります。家族と外食に出かける利用者もいます。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの方はお金を所持していないが、少額を所持されている方はおられる。買い物等では立て替えて一緒に買い物をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話があれば本人に取り次いでいる。本人からの訴え時には希望に沿っている。家族に送る年賀状を書けるようお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに接している台所から包丁の音や料理の匂いを感じることができ、食器拭きや洗濯物畳み等を一緒に行うことで生活感を感じていただいている。 トイレの臭いは不快にならないよう配慮し、室温等にも快適な環境を心掛けている。	ロビーは広くて明るく、形の異なった大きなテーブルやソファが並べられています。オープンキッチンから食事の支度をする音やおいしい匂いを感じながら、利用者は思い思いの場所で寛いでいます。壁面には季節を感じさせる風景を折り紙や切り絵で表現して、利用者は落ち着いて過ごしています。玄関では利用者が育てている草花が家族や来客を迎えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の気分でソファで寛いだりテレビの前に移動したりと自由に過ごしている。 気の合う人と会話を楽しめるよう座席の位置を配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の馴染みの家具を持ち込んでいただいている。居室内にはご家族の写真飾ったり、仏壇を置いたりしている。日中居室で音楽を聴いたりテレビを見たりとくつろげる空間になっている。	各居室入口には可愛い花の名前が付いた飾り物が表札と共にかけてられ、優しい雰囲気を作っています。居室内はそれぞれ自分風に家族写真や手作り品、昔使いこんだミシン、家具等を飾り、利用者は落ち着いて過ごしています。居室でゆっくりと読書を楽しんでいる利用者もいます。仏壇や神棚を祀っている居室もあります。どの居室も明るく清潔で、利用者は思い思いにゆったりと過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。廊下・トイレ・浴室には手すりを取り付けられ、安全に歩行できるよう配慮されている。 居室前に表札や写真を付けたり、椅子の色を変えたりして「わかること」を活かせるよう支援している。		